

つながろうみんな 学校のため まちのため

高浜市立港小学校

1 実践のねらい

1年生から6年生までの全児童と、その保護者を対象に有志を募って、「港キッズクラブ」を組織する。これを異世代交流の中心と位置づけ、組織内の異学年交流、異世代交流はもとより、関係する地域諸団体と協力して、様々な活動を計画、運営したり、手伝ったりする。この活動を計画する段階で、地域の人たちや関係諸団体の人たちと、活動内容や運営について話し合いながら進めていく。これにより、地域に根ざした開かれた学校となることを目指す。

2 実践の内容

(1) 地元のお祭りの準備と協力

学区地域のお祭りである田戸町まつりの準備会に合わせて、第1回の港キッズクラブ会議を開き、今年度の活動計画を話し合った。子どもたちからは、「自分たちの手でいろいろ計画してみたい」「大人の人たちの助けも借りながら、準備の段階から頑張ってみたい」などの意見があった。大人の立場からは、「子どもと大人が協力する場面を多くもちたい」「準備から一緒にやれたら楽しくなるはず」などの声が聞かれた。子どもと大人が協力して行事を作っていこうとする積極的な方向性を確認することができた。

早速、餅投げで投げる大量の餅の袋詰め準備をした。餅とそれを入れるビニル袋はもちろん大人が準備したものであるが、子どもが中心となって丁寧に袋詰めを行う姿が見られた。袋詰めと並行して、まつり当日に出す金魚すくいや風船釣りなどの屋台に飾り付ける看板や値段表の作製も行った。手狭な社務所の外の青々と葉が生い茂った木々の下で、子どもと大人が一緒になって活動できた。まつり当日には、餅投げの手伝いをしたり、法被を着て屋台を手伝ったりする子どもたちの姿があった。

(2) 地域防災の防災キャンプ

7月に行う防災キャンプに向けて港キッズクラブ会議をもった。2日間の活動計画を立てるのは大変なことであるが、地域防災の専門家の助言をいただきながら子どもと大人が共に知恵を出し合った。「高浜市も海に近いから心配だな」「避難所での生活はいろいろ大変らしいよ」「地震の後に火災が発生すること多いみたい」「いざという時のためにもっと知っておかないといけないことがある」のように、子どもたちからはさまざまな思いが出てきた。この会議の段階から参加しているPTA、おやじの会、地域防災の専門家も含めて大人からは、「子どもたちが体験に合わせて、その意味を考えられるようなものにした」「準備も含めて子どもと大人が協力してやれるとよい」などの意見が出た。話し合いの結果、



みんなで餅をビニル袋に詰め



屋台の看板をかいています



災害カレーの具材の検討中

災害食カレー作り、防災カルタ、放水体験、ダンボール間仕切り体験、災害朝食作りなどを計画した。

P T A、おやじの会、地域防災の専門家などの協力の下、7月に2日間に渡って防災キャンプを実施した。災害カレーは、具材を細かく切り刻んで煮込むことにより、できあがりまでの時間短縮と配膳するときの具材の偏りによる不公平感を減らす工夫がされている。防災カルタは、子どもたちの、「防災についてもっと知りたい」という声と、大人たちの、「学びのある活動もしたい」という声から企画された。ダンボール間仕切り体験は、実際に体育館などに避難した場合、徐々にプライベート空間が必要になってくるといふ避難所の声を生かして実施した。ダンボールで間仕切るだけでも、ある程度のプライベートが確保できることや、ダンボールの保温効果が高いことなどを体験することができた。今回、子どもたちとその保護者だけでなく、P T Aやおやじの会、地域防災の専門家などの大人と協力して、普段やれない体験を数多く行うことができた。子どもたちは、この体験を通して災害から地域を守り、いざという時に地域の一員として避難所運営に関わろうとする気持ちをもつことができた。子どもたちは、地域の方々から認められた喜びを胸に、これからも地域のために貢献しようとする思いを強くした。



体育館での防災カルタ



ダンボール間仕切り体験

(3) 地域交流事業

8月に行う地域交流会に向けて港キッズクラブ会議をもった。今回はP T A、おやじの会、港キッズクラブ、各町内会、南部まちづくり協議会、南部公民館が協力して行うもので、子どもから大人まで400名以上の参加がある会である。話し合いの結果、この会での港キッズクラブの役割は、田戸町まつりの経験を生かして屋台の準備と運営とした。子どもたちは、「田戸町まつりのときよりもっと準備に関わりたい」と思いを語っていた。田戸町まつりよりも今回の方が準備をすることが多いことを生かして、なるべく多くのことを子どもたちが行うことで話し合いが進んだ。当日は、資材の搬入から下準備、屋台の売り子はもちろんのこと、裏方の仕事まで、大人と協力して熱心に行うことができた。当日は、交流会に訪れた地域の方々から、「港小のみなさんのおかげで交流会は大盛況ですね」といった温かい言葉をいただいた。



裏方の仕事も進んでします

3 実践の成果や課題

港キッズクラブ会議で活動を計画し実施していく中で、子どもと地域の方や保護者の方、子ども同士が意見を交換する場面やふれあう場面をたくさん見ることができた。子どもと大人が共に考え、共に楽しむことがお互いの絆を深め、温かく思いやりあふれる地域を築くことにつながることを子どもも大人も感じ取ることができた。子どもたちは、今回の活動を通して地域の方々から支えられたことに感謝するとともに、地域の一員としての自覚をもち、地域のためにできることを考え、実践しようとした。今後も子どもたちの意欲を大切にしながら、地域との連携を図り、地域に根づいた学校づくりに取り組み続けたい。